

2014 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	表象文化学部共通 科 目
-----------	--------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

この科目群は、英語英文学科・日本語日本文学科の両学科を統合し、新たな理念のもとに発足した表象文化学部の新機軸であり、また基幹となるべき重要なものである。

全体を見渡してみると、3「知的好奇心の刺激」が 4.17 (4.06＝全学)、5「教員の話は聞き取りやすい」が 4.21 (4.16＝全学)、6「授業方法の工夫」が 4.17 (4.08＝全学) とやや高い数値になっている。一方、1「授業内容が理解できた」は 4.06 (4.13＝全学) とやや低く、4「授業時間外の学習時間」も平均より低いものの、総じて全学平均より上の科目が多く、目的は達していると言える。

もちろん個々に比較すると、科目間の差が大きいのも特徴といえる。例えば「英語で案内する京都Ⅱ」「日英対照語研究B」「外国語教育論Ⅱ」「社会と外国語教育B」などの科目は数値が高かった。しかしながら「文化と表象B」「京ことば」が目立って低い結果となっている。

数値が目立って低い一部の科目については、担当教員にその原因究明と授業の工夫などを積極的に求め、次年度以降の改善をめざしたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター